

普及活動情勢報告（平成27年7月分）

中央西農業振興センター農業改良普及課

J Aとさしイチゴ部会で環境制御技術説明会の開催 ～環境制御技術加速化事業について説明会を行いました～



環境制御技術の説明会

6月22日、J Aとさしイチゴ部会に呼び掛けて、イチゴにおける環境制御技術の説明とあわせて環境制御技術導入加速化事業の説明会を行いました。

当日には、関心のある生産者が3名集まり、農業改良普及課からの説明の後、導入のための具体的な内容で熱心に質疑応答がされました。

その結果、2名の生産者が機種の選定など導入の検討をすることになりました。

中央西地区普及推進協議会を開催 ～普及指導計画についての意見が出されました～



推進協議会での説明

6月24日、土佐合同庁舎において、農業者・関係機関を委員とした、第1回中央西地区普及推進協議会を開催しました。農業改良普及課から、今年重点課題としている環境制御や、総合課題である提案型担い手確保・集落営農の課題と、環境保全型農業・6次産業化等の説明を行いました。委員からは、「（環境制御技術は）農業技術センターでも良い結果が出ており、できることをやって技術を上げるべき」「集落営農の組織ができたから、耕作放棄地の解消など前向きに考えることができた」との声が出されました。

農業改良普及課は、こうした意見を参考にし、普及指導計画を実行していきます。

第一回全国メロンサミットへの参加と支援 ～全国14のメロン産地が集まり情報交換と販促活動～



J Aとさしメロン部会のブース

6月27～28日、静岡県袋井市で全国メロンサミットが開催され、J Aとさしメロン部会が参加し、農業改良普及課も支援のため同行しました（生産者3名、土佐市長、関係機関4名）。

初日のビジネスサミットには300人を超える全国14産地の生産者と関係機関が集まり、産地のプレゼンテーションやパネルディスカッションを通してメロンの消費拡大や販路拡大、良質なメロンの生産を定めた共同宣言が採択されました。2日目のイベントサミットでは4万人を超える来場者が訪れ、J Aとさしメロン部会の出展ブースでも試食用メロンが無くなり、販売用も昼過ぎには完売しました。

参加したメロン部会員からは、大変だったが来年のサミット（鉾田市で開催）にも是非参加したいという声が聞かれました。

27園芸年度JAとさし胡瓜部会反省会 ～炭酸ガス施用実証結果と提案型担い手募集～



提案型担い手募集の説明

7月1日、土佐市内において、胡瓜部会反省会が開催され、生産者や関係機関ら44人が参加しました。

農業改良普及課からは、生育概況や炭酸ガス施用実証結果、また部会として取り組む提案型担い手募集について、情報提供しました。炭酸ガス施用実証については、栽培管理などのポイントを説明し、事業説明会後の反省会でしたので、熱心に聞き入っていました。

部会で研修生受入を行う提案型については、担い手育成Cと連携した研修やJA所有の実践ハウスなど、今までの経緯と今後の予定を説明しました。

農業改良普及課では、次年度、炭酸ガス施用実証では、施用と生育診断の検討等を計画しています。提案型については、東京での就農相談会（12月）を目指していきます。

炭酸ガス施用技術に関するグループ実証成果発表会を開催しました ～県内事例の報告と熱心な質疑が交わされる～



事例報告を聞き入る参加者

6月26日、土佐市において炭酸ガス施用技術に関するグループ実証試験の成果発表会を開催しました。

普及課、高知普及所が各地区内で行った実証試験結果を、産地・流通支援課の細川専技が県内の事例（キュウリ、ピーマン、シシトウ、ニラ）について報告しました。キュウリ、ピーマンを中心とする生産者24名を含む79名が参加し、「炭酸ガス施用開始は品種によって変えるとよいのか?」「プレナイトドロップの開始のタイミングはいつごろがよいのか?」など、熱心な質疑が交わされました。

普及課は今後も環境制御技術に関する実証試験を通して、環境制御技術を普及していきます。